

令和7年度 県立工業技術センター研究課題評価結果

個票 No.	研究課題名	評価項目	評価結果			委員コメント (※類似コメントは集約)
			平均 得点	合計 得点	採否	
7	【追跡評価】 緯糸特性と生地風の合い 変化に関する研究	企業への 直積的效果	4.5	17.7	達成	【評価の結論に至った理由・考え方】 実際の製品生産には至らなかったものの、播州織の普及に向けて、舞台衣装への採用など具体的な成果に結び付けている点は評価できる。 ちりめん風生地の独自の風合いは、購買意欲の向上や新たな価値創出に寄与するものであり、産地支援の観点からも意義がある。 製品化に向け、企業との相談や検討を重ね、量産一步手前まで進めている点から、多方面にわたる継続的な努力がうかがえる。 量産(本生産)を想定した検討や、劇団四季の舞台衣装としての使用実績など、波及効果が具体的に示されている。 実用面として、縫製性の課題についても検討・改善が行われており、現場を意識した取り組みが評価できる。 新たな織物を開発した成果は高く評価でき、今後は最終製品として、より幅広く社会に活用されることが期待される。
		副次的・波及 効果	4.2			【提案機関へのアドバイス】 播州織を製品としてブランド化していくにあたり、凹凸のある布の風合いをどのように評価・訴求していくかを検討することは有意義であり、今後の展開に期待したい。 播州織の特長を活かし、ものづくり産業への幅広い活用につながることを期待される。 製造コストの低減などにより価格面で競争力が高まれば、需要拡大につながる可能性がある。 さらなるPRや普及活動を通じて製品化を進めるとともに、権利化(知的財産の取得)についても検討することが望まれる。 本生産につながるため、継続的な改良と積極的な情報発信を進めてほしい。 播州織の知名度向上を図りながら、実用化に向けた取り組みを引き続き推進していくことが期待される。
		県施策への貢 献	4.5			
		今後の研究への 発展・フィード バック効果	4.5			
8	【追跡評価】 持続可能性に配慮した環 境対応型製革技術に関 する研究	企業への 直積的效果	4.8	18.3	達成	【評価の結論に至った理由・考え方】 皮革製造における深刻な環境課題であるクロム鞣しへの対応について、具体的な成功事例を示しており、実効性の高い取り組みとして心強く評価できる。製品の用途や価格帯に応じた明確な差別化戦略も適切である。 「白の中の白」を実現する高品質皮革の実用化技術は特筆すべき成果であり、高付加価値製品創出の観点から高く評価される。 姫路・龍野地域の地場皮革産業における環境負荷低減に向け、関連企業と連携して取り組んだ点は、地域産業支援の好例である。 環境規制が一層厳しくなる中で、高付加価値製品および低環境負荷・低コスト製品の双方を視野に入れ、安全で安価な新プロセスの開発や、他社へのプロセス技術支援まで展開している点は高く評価できる。 ジルコニウム鞣しが一部企業で本格採用され、防水性技術についても多くのメーカーで活用が進んでいるなど、研究成果の産業波及効果が具体的に示されている。 さまざまな規制環境の中で、富裕層向け高付加価値製品とコスト重視型製品の両立に向けた道筋を示した点は、産業の持続的発展に資する成果といえる。 地元産業の将来を見据え、今後も継続的に取り組むべき重要な研究テーマである。
		副次的・波及 効果	4.3			【提案機関へのアドバイス】 高付加価値化によって日本国内企業にとってプラスとなる技術であり、その発展に期待したい。一方で、安価な技術についても日本全体への普及や技術指導を進めることで、幅広い産業支援につながると考えられる。 コスト要因(硫化ナトリウム等)を踏まえつつ、富裕層向け高付加価値製品と大衆向け製品を明確にすみ分けた研究・開発を継続する姿勢は重要である。 地場皮革産業が持続的に発展していくためには、知識や技術を次世代へ継承する人材育成が不可欠であり、その点にも注力することが望まれる。 地元皮革産業の継続と発展に向け、今後も引き続き研究・技術支援に取り組んでいくことが期待される。 多様な技術的選択肢を備え、さまざまな要望に柔軟に対応している点は大きな強みであり、高く評価できる。 実用化に向けて課題は多いものの、センターが中心となって関連技術の社会実装を着実に進めていくことを期待したい。
		県施策への貢 献	4.7			
		今後の研究への 発展・フィード バック効果	4.5			
9	【追跡評価】 AIによる画像認識技術を用いた黒毛和牛の個体識別	企業への 直積的效果	4.5	17.8	達成	【評価の結論に至った理由・考え方】 画像認識技術が農業分野で実際に活用され、有意義な成果を上げていることが理解でき、研究テーマとして高く評価できる。 黒毛和牛の鼻紋や肉質をAIで判定するアプリの開発に成功し、その技術を基盤として実用的なアプリ展開を進めている点は評価できる。 AIによる画像認識技術は、黒毛和牛の個体識別にとどまらず、酒米の判別など他分野との組み合わせによる応用展開も期待される。 農業分野において一定の成果を挙げており、開発研究としては十分な実績を示していると判断できる。 開発した技術をさまざまな分野に展開することで、AIに関する知見や技術的ノウハウが着実に蓄積されている。 多方面から継続的に取り組んでいる努力がうかがえ、研究開発体制として評価できる。 一方で、今後は地場産業への具体的な貢献や市場規模を意識した開発方針を、より明確に示していくことが望まれる。 引き続き、農業分野を中心としたAI技術の応用研究を継続し、さらなる社会実装につなげていくことを期待したい。
		副次的・波及 効果	4.7			【提案機関へのアドバイス】 本研究は応用範囲が広く有用である一方、同様の解析手法が多分野で用いられている現状を踏まえ、兵庫県工業技術センターならではの独自性をさらに追求することで、より高い効果が期待される。 AI技術の導入が相対的に遅れている農業分野において、本技術の活用を一層推進していくことが望まれる。 工業分野ではAI応用が進展していることから、農業分野特有の課題や特性を十分に理解した研究開発を継続することが重要である。 他分野の研究者や企業とのコラボレーションを通じて、より良い商品開発や新たな価値創出につながることを期待される。 すでに多様な分野への展開が進められている点は評価でき、今後も継続的な技術展開が望まれるが、汎用的な技術提供にとどまらないよう、研究の軸を明確にすることが重要である。 将来的には、地場産業で実際に活用される技術として定着することが期待される。
		県施策への貢 献	4.3			
		今後の研究への 発展・フィード バック効果	4.3			